

2024年度助成金および奨学金贈呈式&事例発表会実施

2024年8月7日／大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール

国内外55団体に総額1億1,330万円を助成

関西・大阪21世紀協会は、2024年度の万博記念基金助成事業として、国内外から申請された163件の中から55件を採択し、総額1億1,330万円の助成を決定しました。また、日本文化を研究する外国人留学生(大学院修士課程)を対象とした奨学金給付事業については、全国の8大学からそれぞれ推薦された8名に奨学金の給付を決定しました。

8月7日にその贈呈式が行われ、出席した助成事業者24団体の中から、代表として3団体と奨学生8名に崎元利樹理事長から目録が手渡されました。

贈呈式の後、2023年度助成事業者から2団体、2024年度助成事業者から1団体の事例発表が行われました。



崎元利樹理事長(右)より助成金目録を贈呈

2024年度の申請と採択の内訳

	申請		採択	
国内外合計	163件	4億8,796万円	55件	1億1,330万円
国外事業者(内数)	(30件)	(8,975万円)	(6件)	(1,180万円)

※申請件数163件および採択件数55件には、それぞれ2023年度の複数年度助成事業(継続)1件を含みます。

2024年度奨学生決定

日本文化を研究する外国人留学生への奨学金給付事業

万博記念基金では、「日本文化を研究する外国人留学生を対象とした奨学金給付事業」の2024年度奨学生として、8名の奨学生を決定しました。今後、日本文化を学ぶ機会や交流の場を設け、奨学生同士や当協会とのつながりを深めて、将来「日本と外国との架け橋」となる人材を育成していきます。



WANG RUI

(オウ エイ)さん
〈中国〉

京都市立芸術大学
大学院美術研究科
保存修復専攻

文化財の保存修復および保存技術を学び、持続可能な保存方法の確立を通じて、貴重な文化財を次世代に伝え、文化財保護の意識を広めたいと思います。



GUO BAOYI

(郭 宝怡)さん
〈中国〉

東京藝術大学 大学院国際芸術
創造研究科 アートプロデュース
専攻(リサーチ研究分野)

昨今急速に進化を遂げる生成的人工知能に対し、東アジアの技術観を取り入れ、創造的労働者が、人間としてかけがえのない価値を再認識するための研究を展開しています。



BINDE LIYA

(ビンデ リヤ)さん
〈中国(内モンゴル)〉

大阪大学
大学院人文学研究科
外国学専攻

モンゴルのことわざと日本のことわざを比較して、それぞれに反映される文化的背景と価値観の違いや共通点を解明し、異文化理解の促進に貢献したいと思います。



LAU, Serena Hey Tung

(リュウ キトン)さん
〈香港〉

早稲田大学
大学院創造理工学研究科
建築学専攻

東京を対象に、都市の住み良さの構成要素の研究をしています。この研究によって、居心地のいい空間の構築に取り組みたいと思っています。



白 松楠

(ハク ショウナン)さん
〈中国〉

東京大学
大学院工学系研究科
建築学専攻

東アジアにおける木造建築史を専門としています。特に日本と中国を中心に、古代から中世にかけての建築技術の交流・工匠集団の影響、そして技術の受容状況を探求しています。研究に専念できる環境に心から感謝しています。



YIN YIXI

(イン イッセン)さん
〈中国〉

京都大学
大学院工学研究科
建築学専攻

文化財の劣化メカニズムの解明そして将来の保存・展示空間について、建築環境制御工学の技術を用いて、新しいアングルから知見を提供し、文化財の保全・継承に貢献していきたいと思っています。



JUNG SOYOUNG

(ジョン ソヨン)さん
〈韓国〉

筑波大学 人文社会ビジネス科学
学術院 人文社会科学研究群人文
学学位プログラム 言語学専攻

在来語と外来語の意味機能・用法を分析し、日本語の語彙体系における意味変化を研究しています。将来は日本語だけではなく、日本の素晴らしい文化を伝播する人になりたいです。



Van de Velde Dino

(ヴァン デヴェルデ ディノ)さん
〈ベルギー〉

九州大学
大学院人文科学府
人文基礎専攻

日本の大正時代におけるナショナルリズムの写真表現について研究しています。この成果を生かし、現代日本の基礎を深く理解し、西洋と日本の橋渡しとして働きたいです。



奨学金目録贈呈の様子

2023年度奨学生による中間報告会を開催

2024年2月17日／大阪中之島美術館 1階ワークショップルーム

日本文化に関する多彩なテーマを発表

「日本万国博覧会記念基金奨学金」を活用して研究テーマを追究する外国人留学生(奨学生)たちが、これまでの学業生活で学んだこと、調査したこと、制作したことについて、大阪中之島美術館において中間報告会を開催しました。

当報告会は、奨学生が自らの研究テーマを深掘りすることを目的に関西・大阪21世紀協会が主催したもので、奨学生たちは、併せて同美術館の主催イベント『Osaka Directory』と『企画展：「決定版！女性画家たちの大阪」、「モネ 連作の情景」』を鑑賞。日本文化と外国文化の違いに触れ、親しむことで、自分の経験値や価値観の幅が広がり、柔軟な思考力を身につける良い機会となりました。

2023年度奨学生と研究テーマ・内容



張 子萌

(チョウ シモウ)さん

大阪大学大学院
人文学研究科
芸術学専攻

研究テーマ『新海誠の映画における古代日本の想像力』

脚本家・アニメーション監督の新海誠氏の個人的体験、東日本大震災の影響、映像表現という三つの面から、同氏の映画における巫女の表象をはじめとする古代日本人の想像力について論じたいと思います。



肖 藝凡

(ショウ ゲイボン)さん

大阪大学大学院
人文学研究科
人文学専攻(哲学)

研究テーマ『見者の創出と方法としての映画－見ることのパフォーマンス研究－』

映画制作という営為を一つの社会的実践であることを踏まえた上で、その相互行為の形式について理論的な考察を行い、今年度では、哲学的なアプローチから、これまで研究してきた「見ること」の理論の応用射程を広げることに取り組んでいます。柄谷行人(視差)、ベンヤミン(複製技術)、ハーバーマス(コミュニケーション)などを引き合いに出し、映画に含まれる間主体的な特性を分析し、分断化が進む現代社会を修復する役割を映画作りはどのようにあるべきかを哲学的に考察しています。



鄭 卉芹

(ジュン ホウイチン)さん

京都市立芸術大学
大学院美術研究科
保存修復専攻

研究テーマ『絹本絵画における技法および素材の研究－東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」の想定復元模写－』

現代の台湾では環境や動物性たんぱく質の影響により、制作と保存が難しく、絹で絵画制作をする機会は少なくなっているため、絹絵画の技法と素材を研究するとともに、絹本絵画における伝統的な絹、絵具、技法、表現について考察し、想定復元模写を通して当初に描かれた様子を再現し、美意識を明らかにしています。



HA RHIN

(ハリン)さん

大阪大学大学院
人文学研究科
芸術学専攻(美学)

研究テーマ『日本の食文化を研究するための方法模索～現象学～』

日本の食文化を支えているのは、(日本)食の体験の蓄積の結果であり、食体験(身体性を含めて)を哲学的に扱う研究は稀です。そこで、食の体験は単純な伝統的文化的価値を超えて、日常を支える価値のある対象でもあり、存在論の問題まで上げられる可能性がある(感覚/知覚)ものとして考察しています。



吳 雯雯

(ゴ ブンブン)さん

京都市立芸術大学
大学院美術研究科
工芸専攻(漆工)

研究テーマ『現代技術と伝統文化を融合して漆の新たな可能性を広げる研究』

中国と日本の伝統文化や要素などをテーマにし、グラフィックデザインやレーザーカッターなどの現代要素を取り入れた漆作品を制作しています。例えば漢字、葦手、和歌など、これらの伝統文化の美しさを漆の作品を通じてより多くの人に伝えたいと共に漆の新たな可能性を広げたいと思います。



MANETTI ANNA

(マネッティ アンナ)さん

早稲田大学大学院
文学研究科人文科学専攻
(国際日本学)

研究テーマ『明治時代の翻案小説－南陽外史が翻訳したシャーロックホームズ－』

本研究の目標は、日本語が話せない研究者・学生に、日本文化・日本の翻訳史の魅力と重要性を伝え、英語で論文を書き、英語圏の論文誌に掲載し、英語圏の文文学科にはヨーロッパ文学だけではなく、日本を含むアジア文学に関する論考と考察ができるようになりたいと思います。



中間報告会の様子(大阪中之島美術館 1階ワークショップルームにて)



2023年度奨学生の皆さん

世界 世界各国で助成が活かされています。

過去53年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

< 第 7 回 >

イギリス王立キュー植物園 (イギリス)



イギリス王立キュー植物園 (Royal Botanic Gardens, Kew) は、ロンドン南西部の120haの敷地に4万種以上の植物が育ち、700万点以上の植物標本を持つ、世界最大級の植物園です。1840年に植物園として開放され、世界各国の植物や独自のガーデンスタイルを見ることができ、2003年には世界遺産に登録され、年間100万人以上が訪れる人気の植物園です。

万博記念基金では、1994年、1996年、2016年に施設整備や展示会に対し助成しています。

王立キュー植物園マーケティング部門シニアプレスオフィサーのサラ・ファレル (Sarah Farrell) さんに、同植物園の Japanese Landscape について、ご紹介いただきました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金額
1994年度	王立キュー植物園内勅使門の修復	王立キュー植物園	2,000万円
1996年度	王立キュー植物園日本庭園整備事業	王立キュー植物園	2,000万円
2016年度	シャーリー・シャーウッド植物画ギャラリーでのフローラ・ジャポニカ展示会	王立植物園キューガーデン財団 および友の会	260万円

Royal Botanic Gardens
Kew

1996年に一般公開された Japanese Landscape は、キュー植物園の中で最も親しまれ、有名なエリアの1つです。ライオンゲートから歩いてすぐの場所にあるこの静かで刺激的なスペースは、賑やかなロンドンの中で癒しを提供しています。

Japanese Landscape は、3つの独立した庭園で構成されています。日本の伝統的な茶園を再現した「平和の庭」は、小さな石灯籠がある曲がりくねった小道と、静かに佇む水辺で構成されています。風景の終わりに、「活動の庭」が滝や山々の険しい形態を連想させる緩やかな斜面があり、繊細に敷き詰められた砂利や慎重に配置された岩が自然界の豊かな美しさを表現しています。「調和の庭」は、日本の山岳地帯を石や岩石で表現し、2つのエリアを結びつけています。



石灯籠 (平和の庭)

Japanese Landscape の中心には、勅使門ちやくしもんがあります。これは、1910年にロンドンで開催された日英博覧会に出展した後、キュー植物園に移築されました。勅使門は京都の西本願寺にある唐門の小規模なレプリカであり、



勅使門

日本の伝統的な技術と現代の技術革新を組み合わせ、1995年に復元されました。日本のヒノキから作られた勅使門は、16世紀後半の桃山時代のスタイルで作成され、精巧に彫られた木作品には、高度に様式化された動植物や、日本の伝説に登場する人物が描かれています。

キュー植物園の園芸員は、来場者が楽しめるように Japanese Landscape を丹念に維持しています。毎週、日本で教えられた技術を取り入れた伝統的な木製の熊手を使い、庭の砂利をかき集めて、水の動きを象徴する円形、波形、直線のパターンを描きます。毎年9月または10月には、日本の伝統である月見を祝うために、砂利が細かく市松模様に掻き集められます。



Japanese Landscape には、さまざまな日本の植物種が豊富に植えられており、季節を通して印象的な色彩の風景を作り出します。春のピンクや白の可憐な桜、秋のドウダンツツジやカエデの真赤な色調まで一年を通して変貌し、世界中から訪れる人々の人気を博しています。



写真提供: Royal Botanic Gardens, Kew

助成先の事業紹介

2024年度助成事業の中から、事業者より寄せられた内容をご紹介します。

「瀬戸内オデッセイ」プロジェクト (複数年度助成事業)

事業者：一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリー 助成金額：300万円(2024年度分)
実施期間：2024年6月1日～2026年3月15日 実施場所：香川県丸亀市ほか香川県内複数箇所、神奈川県横浜市、愛媛県ほか

日本における現代サーカスのパイオニアとして、現代サーカスを媒体に、新しい社会の未来を描く事業を展開します。芸術分野においては、フランスを代表する現代サーカスカンパニーを招聘して横浜で公共劇場と共催で実験的ラボラトリーを行い、2025年度の創作・公演につなげ、社会福祉分野においては、欧米の先達を招き、自治体と連携しながら、日本の社会的課題を解決するソーシャルサーカスに取り組みます。また、欧州やアジアの国々と連携し、現代サーカスネットワークのハブとしての取り組みを行います。

芸術のみならず、地域のすぐれた職人を擁する産業、教育、福祉などとのコラボレーションを重ね、地域と世界が

直接つながる、新しく独創的な文化を生み出します。



福島の子青少年と外国人音楽家との国際音楽交流事業 (単年度助成事業)

事業者：NPO法人 福島青年管弦楽団 助成金額：210万円
実施期間：2024年4月2日～10日 実施場所：福島県福島市、台湾台北市

音楽による青少年の人的成長を目的に、福島県内の若者とメキシコ人留学生でオーケストラを結成し、外国人のプロ音楽家らの情熱的な指導のもと、福島市と台北市においてコンサートを開催しました。台北公演では「台北フィルハーモニー管弦楽団ユースオーケストラ」と共演し、滞在中に予期せぬ「花蓮地震」に見舞われたものの、被災された方々のためにもコンサートを成功させようと、福島とメキシコと台湾の若者たちが言葉の壁を越えてお互いに助け合いながら、総勢100名で壮大な演奏を披露しました。この国際的な音楽交流を通して、互いの文化に理解を深めながら共に大きな達成感を体験し、それに

よって若者たちの心の成長につなげることができました。



公演風景

Beyond Noh Sumidagawa 2024 (単年度助成事業)

事業者：Azuki Foundation 助成金額：180万円
実施期間：2024年6月16日～23日 実施場所：オールドバラ音楽祭会場、ロンドンキングスプレイス、バーミンガム市交響音楽センター

本事業は、英国の格式高いフェスティバル会場でトップレベルの能楽師が演技を披露し、日本の古典である能が持つ、時間を超越した本質、人情力を『隅田川』に焦点をあてて、生き生きと描くことを狙いとしています。また、英国のアーティストたちが能にヒントを得て新たな作品を創作し、公演します。

オールドバラ・フェスティバルでは、イギリスの語り部による新作を上演し、字幕に頼らず能を鑑賞してもらうとともに、隅田川をテーマにした彫刻家の作品を展示し、能と現代美術のつながりを探ります。

ロンドンのキングスプレイスで開催される「第4回能楽祭」では、2つの能の名曲『隅田川』と『砧きぬた』に加え、

若手作曲家による新作の公演や一般向けのワークショップやトークも行います。

